

知ってください！



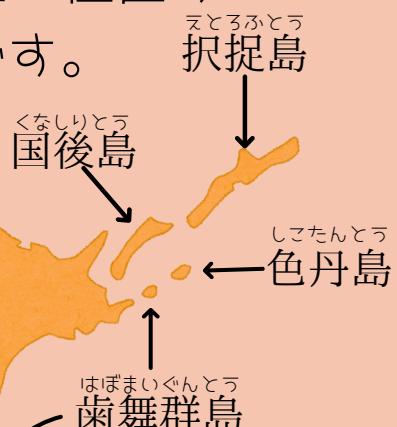
北方領土問題

塩竈市現地視察団

私たち塩竈市現地視察団（塩竈市中学生20名）は、8月19日から2泊3日で、北海道根室市と標津町を訪問し、北方領土問題について学ぶ視察事業に参加しました。この視察で学んだことや感じたことの一部を紹介します。

北方四島の位置

北海道本島の北
東洋上に位置する
四島です。 えとうふくとう 拠捉島



北方領土問題とは

1945年8月の第二次世界大戦終了直後、ソ連軍が我が国の領土である北方四島に侵攻し、80年が経過した今もなおロシアが不法に占拠し続けているという問題です。

詳しくは「北方領土問題対策協会」のHPをご覧ください。



元島民角鹿（つのか）さんとの出会いから



つかのま やすじ
角鹿 泰司さん

北方四島の一日も早い返還を目指して活動されている角鹿さんから、勇留島（歯舞群島の一つ）で幸せに暮らしていた様子やソ連軍に占拠された状況、現在の気持ちなどについてお話を伺いました。「**北方領土は私の故郷の思い出が詰まった宝の島**」と力強く語る角鹿さん。幸せな暮らしが奪われてしまった角鹿さんたちの思いを想像すると、胸が締め付けられます。しかし、感傷に浸っているだけではなく、この問題を**自分のこととして私たち一人ひとりが受け止めいかなくてはなりません**。

角鹿さんが「**当時を知る人が語る言葉と、知らない人が語る言葉は全然違う。でもその両方の言葉があるからこそ、当時を伝え続けることができ、領土問題を過去のものにせずに済む**」と語るように、私たちはこの問題を「今」のものとして捉え、行動を起こすことにしました。

視察を通して考えたこと

人ととの交流を大切にしたい。國同士がぶつかると解決は難しいが、住んでいる人どうしがつながなければ、少しでも理解が深まると思う。実際に交流を行った時、ロシアの方達は楽しそうだったと聞いたのでさらに交流を活発にすることが大切だと思う。(K・A)

北方領土問題は国と国との大きな問題であり、私たちだけで解決できるような問題ではない。しかし、何もできないわけではなく、私たちなりにできることはたくさんあると思う。私たち一人一人の関心や行動が少しづつ解決への道につながつて、やがて解決につながると思う。(W・S)

これまで日本とロシアの間では北方領土返還の交渉が何度も行われてきましたが解決に至っていません。しかし、僕たちはあきらめずに北方領土問題を解決する気持ちを持ち続け、日本人が自由に四島へ行けき来できる日が来る信じ、たくさんの人々にこの事を知ってもらいたいと思います。（S・R）

北方領土問題を歴史の一部として考
えるのではなく今を生きる私
たちの課題として考え続けていく
ことが重要だと考えさせられま
した。もちろん一人の力で解決でき
る問題ではありませんが、学んだ
ことを家族や友人に伝えていくこ
とで関心を広げることができます。
これからも学び続けて行動に
繋げていきたいです。(S・A)

あなたの声を
聞かせてください



チラシを読んでの感想 はこちらから